

## ○令和元年度奨励研究

### 「<自虐風自慢>についての言語学的考察—ポライトネスの 観点から—」

人間科学センター 教授 佐藤 純

人間科学センター 嘱託助手 大久保 龍寛

#### 1. 研究目的

本研究は話し手の自虐風自慢によって聞き手が感じる強い不快感がどのようにして生じるのかを語用論の観点から明らかにしようと試みたものである。自虐風自慢とは、以下のように、一見すると自虐しているように見せつつも、その実自慢しているように受け取られる発言を指す。

- (1) 「食べ過ぎてまた太っちゃった…。人生初の45kg越えかも！」

(<https://woman.mynavi.jp/article/190717-6/>)

(1) の前半部分では、食べ物を摂取し過ぎたことにより体重が増えてしまった、という発言をしている。これは、節制や自己管理ができない人間である、という否定的な評価を自己に下しているため自虐をしているものと解釈できる。しかし、(1) の後半部分では、これまで体重が45kgを越えたことがない、という旨の発言が成されている。この発言からわかるのは、話し手が、日ごろから節制や自己管理がしっかりできる人物でありスタイルが良いということを示していることから自慢のように受け取ることができる。このように、自虐風自慢は、自虐と解釈可能な部分と自慢と解釈可能な部分で構成される発話であることになる。

自虐風自慢は、自慢という要素を含んでいるため、聞き手に不快感を与える発話である。しかし、単純な自慢(例:「私かわいいから男にモテるのよね。」)よりも聞き手に強い不快感を与えるという事実がある。このことは、自虐風自慢を聞いた人が以下のような評価を下すことからもうかがい知れる。

- (2) 「自慢したいなら、いっそストレートに自慢してくれ! ……というのが、やはり、多くの人の総意のようです。」

(<https://cancam.jp/archives/237963>)

- (3) 「自虐風自慢するくらいなら、いっそ普通に自慢してよ! と思う人もおおいはず。」

(<https://josei-bigaku.jp/jigyakuuujiman9587/>)

自虐風自慢は、その名称からもわかるように、自慢の一種である。それならば、自虐風自慢が、(2) や (3) にあるように、単なる自慢よりも強い不快感を伴うのは何故なのだろうか。

#### 2. 研究方法

##### ①インターネットを駆使したデータ収集

自虐風自慢を分析するにあたり、まずは当該発話行為の実例を集めることにした。自虐風自慢は若者言葉のような側面があるため、小説や新聞のような媒体ではその存在を確認することは難しい。そのため、本研究では、インターネットを駆使して自虐風自慢のデータを収集した。具体的には、グーグルなどのサーチエンジンに「自虐風自慢」という検索ワードを入力し、その検索ワードに引っかかったサイトを観察するという手法を取った。この手法の利点は自虐風自慢と目される発話に対してコメントが付されている場合があることである(例えば (2) や (3))。これにより、当該発話が自虐風自慢であるか否かの判断が下しやすくなったといえる。

##### ②語用論的観点からの自虐風自慢の分析

①で得られたデータを語用論的な視座に立ち分析した。具体的には、ポライトネス理論(Brown and Levinson 1987) や含意(implicature) (Huang 2014: 27-83)という考え方をを用いた。まず、ポライトネス理論であるが、この理論の特徴はフェイス(Face)という概念を屋台骨としている点である。フェイスとは全ての人間が持つ公的自己イメージである。つまり、自分はいかかしくしかじかの人間である、というような、他者に対して了解されているであ

う自己像のことである。フェイスには消極的フェイス(negative face)と積極的フェイス(positive face)がある。前者はだれにも邪魔されたくない自分を指し、後者は皆に受け入れて欲しい自分を指す。Brown and Levinson によれば、人はこの二種類の自分を有していることを基軸として言語活動を展開しているとされる。例えば、話し手は、聞き手に何か頼みごとをするときに、聞き手に負担がかかるようであれば、「申し訳ないんだけど…」のような発話の力を弱めるような表現を付け加えるであろう。こうすることで、聞き手の消極的フェイスへの侵害度合いを弱めることができる。このように、人は常に聞き手の(もしかしたら話し手の)フェイスを念頭に会話を行っていると考えられる。

次に、含意の説明に移る。含意とは、見えたり聞こえたりする発話の裏に潜む話し手の意図である。例えば、「このお茶はぬるいな。」という発話からは「このお茶は熱くはない。」という話し手の判断が隠されている。このように語彙自体が何らかの意味を含意するような場合はその含意を否定することはできない(例:「このお茶はぬるいけど熱い。」)。その一方で、ある種の含意は否定することが可能である。例えば、教室にいるAがBに対して「この教室は暑いね。」と言ったとしよう。この時、Aの発話には、「窓を開けてくれないか。」という依頼が裏の意図として込められている。これに対してBが憤りを感じてAに詰め寄ったとしよう。この時、AはBに対して「そんなつもりはなかったんだ。」と否定することができる。このように含意には否定できるものとできないものの二種類があることがわかる。自虐風自慢は否定できるため、後者のタイプの含意であると考えられる。

### 3. 研究結果

最初に、ポライトネス理論に基づき、自虐風自慢の分析を試みた。自虐風自慢は自慢の部分を含む発話である。話し手が自慢をすることで、聞き手はその自慢に対し、何らかの反応、例えば褒めるなど、をすることを強いられる。そのため、聞き手の誰にも邪魔されたくないという欲求、すなわち消極的フェイス、が侵害されることになる。これは話し手が聞き手を褒める際に生じる消極的フェイスの侵害と性質は似ている(例:「君はかっこいいね。」「そんなことないです。」)。本研究では、このようなフェイス侵害を回避するために自虐風自慢が行使されていると分析した。つまり、自虐を前面に出して自慢を隠すことで聞き手が話し手を褒めなければならないという事態を回避させようとしているのである。しかし、この場合でも、聞き手は話し手の自虐に反応せざるを得ないため聞き手の消極的フェイス侵害は依然として残ってしまう(例:A「食べ過ぎてまた太っちゃった・・・。」B「そんなことないよ!」)。これが聞き手が自虐風自慢に対して感じる不快感の要因の一つであろう。この不快感に関しては、消極的フェイスの侵害であるという意味では、自慢も自虐風自慢もさして変わらないと考えられる。

それでは自虐風自慢にあって自慢にはない不快感はどこから生じているのであろうか。それは、自虐と自慢という二つの言語行為を合わせた時に生じる新たな含意から発生する不快感である。まず、自虐により生じる含意を説明する。自虐には、話し手はある価値において談話上設定された標準よりも低い位置に位置付けられているという含意がある。例えば「俺は頭が悪いかからさ」という発話では、頭の良さという価値に関して話し手の価値が談話上設定された標準に比べて低いという含意がある。その一方で、自慢には、話し手が、あるいは話し手が所有する事物が、ある価値Xにおいて談話上設定された標準よりも高い位置に位置付けられているという含意がある。例えば「俺はこの間のテストで100点を取ったよ」という発話では、頭の良さという価値に関して話し手が談話上設定された標準よりも高い位置に位置付けられているという含意が生じる。興味深いのは、このように相反する効果を持つ二つの言語行為が同時に用いられることで新たな含意が生じることである。それは、話し手はある価値Xに関して聞き手よりも上位にある、という含意である。自虐や自慢と違って、自虐風自慢をすることで聞き手が比較対象として新たに加わることになる。これは話し手が聞き手の消極的フェイスを考慮して自虐を行った結果生じてしまう含意であると考えられる。これにより、聞き手は、話し手はある価値Xにおいて自身よりも上であると考えていると推論することになり、結果として、自虐風自慢をされた聞き手は不快な気分になるのであろうと分析できる。

### 4. 考察(結論)

自虐風自慢は単なる自慢よりも不快に感じられることが当該発話を聞いた人から報告されている。この不快さは二つの要因から生じることがわかった。一つは話し手の消極的フェイスの侵害である。この点は単なる自慢でも生じる。もう一つは自虐が自慢と合わさることで生じる新たな含意である。この点が自虐風自慢と単なる自慢が大きく異なる点であり、自虐風自慢が自慢よりも不快であるとされる点であろう。

### 5. 成果の発表(学会・論文等、予定を含む)

今後研究を進展させて学会発表や論文に繋げていく予定である。

### 6. 参考文献

Brown, Penelope and Stephen Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*, Cambridge University Press, Cambridge. / Huang, Yan (2014) *Pragmatics*, Oxford University Press, Oxford.